

## ラッキーナンバー？13

士魂商才

「私はトミー　ワイスコフ、1973年全英オープン優勝、PGA ツアー16勝の世界のトッププロゴルファーだ。待望のマスターズゴルフ選手権の日がやって来た。今日のオーガスタは快晴、難関の11番、12番ホールも無難に通過した。さあ次は13番、みんなは「アーメンホール」なんて言って、このホールを恐れるが、ここを慎重にまとめればあとはいつものとおりプレーすればグリーンジャケットも見えてくるぞ。気負わずティショット、あれ？ちょっと距離が出なかったかな、次の二打目はロングアイアンで打たないと2オンしないな、そんな気持ちがよぎったのか、少し力んでしまいバンカーに入れちゃった、フツ、フツ、バンカーなんて怖くないさ、逆にここはピンにピタッと寄せてギャラリーの喝采をもらおう。さあ三打目、あれ？バンカーから出ない、恥ずかしいけど冷静に4打目、また出ない！！5打目、だけど出たと思ったら反対側のバンカーへ。でもまだ大丈夫だ、バンカーからのカップインなんてことは何度も経験しているんだ、ここで入れればダボだ、まだ取り返せるスコアだ。いかん、いかん、プロは数えないんだ、いい流れを作って次のホールに向かうんだ。数えたら終わりだぞ。ちょっと力んでるぞ、焦るな、焦るな、周囲のギャラリーも指を折って数え始めてるぞ、俺にスポットライトが当たってるようで頭が熱くなってきた、キャディが「気分を変えてここはアプローチエッジで行きましょう」と58度のアプローチエッジを差し出すんで、言われるままにこれで打ったら上手く出たぞ！と思ったら、それがなんとポテトチップのような二段グリーンのとっぺんに、、、嗚呼！「なんて長いホールだったんだろう」そのあとも不運が続いて13打も打っちゃった。13打、これがプロゴルファーの「High Score」として記録されてしまうとは。正にアーメンだった」。

このために現在ではみんなの記憶からは殆ど忘れ去られたワイスコフさんですが、皮肉にもこれからも破られないだろうこの記録で彼は名を残してしまっただけです。因みにちょっとワイスコフさんの名誉のために言っておきますが、この彼の心理描写は私の数多くのゴルフ体験から考えたフィクションですからね。しかしワイスコフはこんな不名誉な記録の後でも更に数々の金字塔を打ち建てていきます。失敗や不得意を経験していく人間ほど大きく成長していくのかもしれませんが、また同じようなことは、運転教習所で1回も教程を落とさないで免許をもらった人ほど事故率が高いという統計もあります。自信をもって生きることは大切ですが、人は傲慢にならずいつも謙虚さを持つていたいものだと思います。



1973年 全英オープン優勝のトム　ワイスコフ



この写真は本文とは関係ありません。目立ちたがり屋のお爺さんの人生最後の1オンの記念写真です。 これ以後数年1オンなし

話は変わりますが、私が尊敬し永くお付き合いいただいている先輩は宴席で興が乗ってくるといつもこんな迷セリフを吟じたものです。

**おれはドジで間抜けで呑兵衛で、スケベで愚図でのろまで意気地なし、**

**渋くてズルくてけちんぼで、モテない懲りない儲からない**

よくぞここまで人間の業をフーテンの寅さんの啖呵売の如く端的にあらわしたものだとは大笑いしたものです。我々も自らををこんな気持ちで戒めていきたいものです。